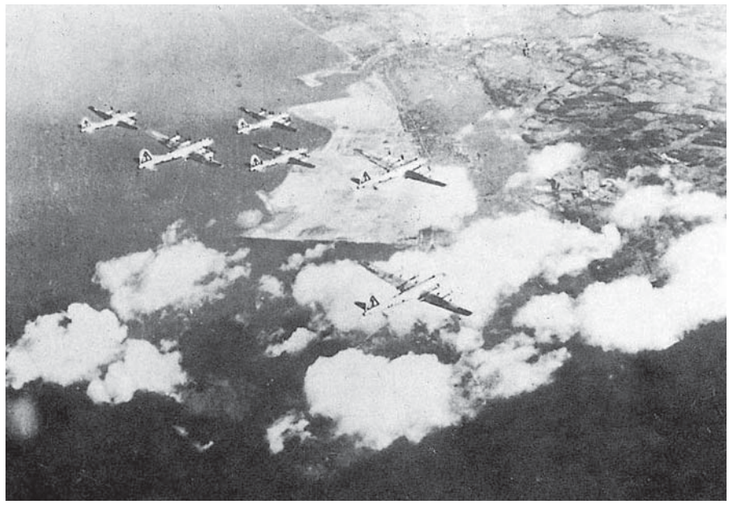
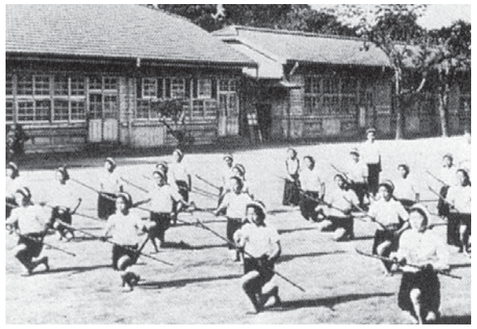
考えよう 平和の大切さ

あなたに伝えたい…「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を

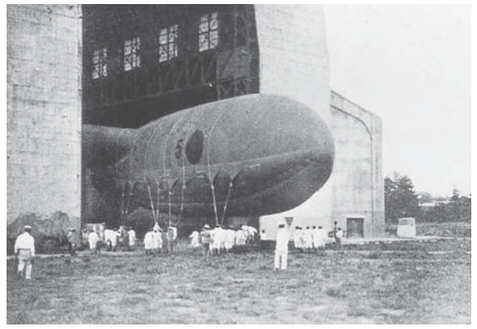
千 葉 市



千葉市上空を飛ぶB29の編隊〈写真提供：千葉市空襲を記録する会〉



国民学校における「なぎなた」の練習風景



格納庫から出る繋留（けいりゅう）気球

被爆後の原爆ドーム（米軍撮影）
〈広島平和記念資料館提供〉

被爆した三菱兵器製作所大橋工場（小川虎彦氏撮影）
〈長崎原爆資料館提供〉

目　次

1 **平和都市をめざして** …… 2
～平和都市宣言～　～平和都市宣言記念像～　～主な平和啓発事業～

2 **平和首長会議への加盟** …… 4
～ヒロシマ・ナガサキ～

3 **戦中の千葉市** …… 8
～戦時下の市民生活～　～市内の陸軍関係の学校・施設～

4 **千葉空襲** …… 12
～昭和20年6月10日～　～昭和20年7月7日～

5 **戦災からの復興** …… 18

6 **世界は今** ～世界の紛争と難民～ …… 22

7 **千葉市の戦跡めぐり** …… 26

はじめに

現在、私たちは平和な生活を送っています。

しかし、太平洋戦争時には千葉市も空襲を受け、中心市街地の約７割が焼失し、多くの方が犠牲となりました。

また、世界に目を向けると、現在も諸所で内紛や地域紛争が絶えません。

私たちは、多くの尊い人命と幸せな生活を奪い去る戦争の悲惨さと平和の大切さを将来にわたって、語り継いでいかなければなりません。

一人ひとりの幸せや都市の繁栄は、平和の上に成り立っています。

このパンフレットにより、平和について考え、平和の大切さを理解し、世界平和への認識を深め、いつまでも平和な時代が続くよう、努力を続けてまいりましょう。

1 平和都市をめざして

千葉市は、昭和20年（1945年）、2度にわたる大空襲により中心市街地の約7割が焼失しました。その後我が国の経済発展とともに成長し、政令指定都市に発展しました。このような繁栄は、平和がもたらしたものです。

本市は、平成元年、世界の恒久平和を願い「平和都市」を宣言し、平成7年には、「平和都市宣言記念像」を設置するなど、様々な平和啓発への取り組みを行っています。

また、平成21年（2009年）8月3日には、平和首長会議（当時、平和市長会議）に加盟し、友好都市・姉妹都市へも加盟を呼び掛けています。

平和都市宣言

私たちの郷土千葉市は、「ゆとりと活力ある都市づくり」を基本目標に、心のふれあう豊かで美しい地域社会の創造と健康で快適なまちづくりに懸命な努力を続けているところである。

郷土千葉市の発展と市民の幸せは、日本の安全と世界の恒久平和なくしては望み得ないものである。

よって、私たちは、核兵器などによる戦争への脅威をなくし、市民共通の願いである世界の恒久平和を求め、ここに「平和都市」を宣言する。

平成元年2月28日

千葉市

平成元年（1989年）2月28日、千葉市は世界の恒久平和を願い、市議会で「平和都市」を宣言しました。

平和都市宣言記念像

『FUTURE SUPPORTERS』
未来を支える人々

平成7年（1995年）7月7日、千葉空襲・終戦50周年を記念し「平和都市宣言」のシンボルとなる記念像を空襲の被災地である京成千葉中央駅東口前に設置しました。
同記念像は、デザインアイデアの一般公募により選ばれた関正（せき まさし）司氏の作品です。高さ10メートルのステンレス製の像は、人々が互いに尊重し、信頼し合いながら支え合う姿を表現しています。

主な平和啓発事業

千葉空襲写真パネル展

戦争の悲惨さを後世に伝え、平和の大切さについて市民の皆様に考えていただくよう、毎年７月から８月にかけて、各区役所やきぼーる、そごう千葉店などで、千葉空襲の状況や戦時下の市民生活等の写真パネル展を実施しています。

また、原爆の写真パネルも併せて展示しています。

きぼーる会場

そごう千葉店会場

平和の折り鶴送呈

市民の皆様から平和への願いが込められた折り鶴を募集し、広島・長崎の両市で行われる「平和記念（祈念）式典」に向け送呈しています。

送呈前には、千葉空襲写真パネル展（きぼーる、生涯学習センター会場）において展示を行っています。

きぼーる会場

写真パネル・DVD・ビデオの貸出し

千葉空襲写真パネルや平和に関するDVD等の貸出しを行っています。詳しい内容については、下記連絡先へお問い合わせください。

千葉空襲写真パネル、原爆写真パネル、
DVD、ビデオの貸出し受付

市役所市民総務課	TEL. 043-245-5153

千葉空襲写真パネル、
DVD「千葉空襲戦災体験談 平和の道しるべ」の貸出し受付

各区役所 地域振興課	中央区	TEL. 043-221-2103
	花見川区	TEL. 043-275-6202
	稲毛区	TEL. 043-284-6102
	若葉区	TEL. 043-233-8120
	緑区	TEL. 043-292-8103
	美浜区	TEL. 043-270-3120

詳しくは、 千葉市 平和啓発 検索

2 平和首長会議への加盟

千葉市は、平和都市宣言20周年を迎えた平成21年（2009年）、平和首長会議に加盟しました。

平和首長会議とは…

昭和57年（1982年）6月24日、ニューヨークの国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、荒木武・広島市長（当時）が、世界の都市が国境を越えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り開こうと「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱し、広島市・長崎市両市長から世界各国の市長宛てにこの計画への賛同を求めました。

平和首長会議は、この計画に賛同する世界各国の都市で構成された団体です。

千葉市は平成21年（2009年）8月3日に加盟し、平成30年（2018年）6月1日現在、世界163カ国・地域7,595の都市が加盟しています。

［ヒロシマ・ナガサキ］

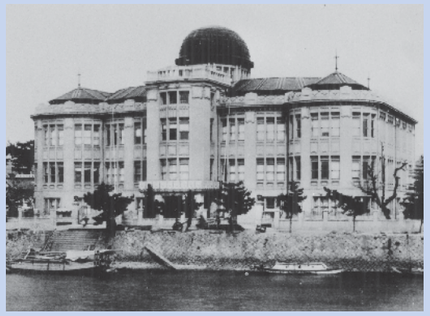
太平洋戦争では、日本全国の都市が空襲による大きな被害を受けました。

日本の主な都市はことごとく焼け野原となり、わずか半年あまりの間に50万人を超える一般市民が犠牲となりました。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分広島へ、8月9日午前11時2分長崎へ、それぞれ原子爆弾が投下されました。日本の空襲被害をヒロシマ・ナガサキに触れずに語ることはできません。

この悲惨な記憶を語り継いでいくことは、千葉市の戦争被害を語り継いでいくこととともに、平和首長会議の一員として、唯一の戦争被爆国としての我々の使命です。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分　広島へ原爆投下



被爆前の原爆ドーム（広島県産業奨励館）
当時はその川面に映える美しさで、観光名所の一つでした。
（広島平和記念資料館提供）

原爆投下後の変わり果てた姿（米軍撮影）
被爆時建物内の職員は全員即死でした。
（広島平和記念資料館提供）

昭和20年（1945年）8月9日午前11時2分　長崎へ原爆投下

浦上天主堂（石田壽氏撮影）
30年以上の歳月をかけて 大正14年（1925年）に完成した、赤レンガ造りの天主堂は、原爆の爆風で粉々に壊れてしまいました。
（長崎原爆資料館提供）

三菱兵器製作所大橋工場（小川虎彦氏撮影）
工場は鉄骨に鉄板を張って作られていましたが、爆風で鉄板は粉々に飛び散り、鉄骨は折れ曲がり、工場は倒れました。
（長崎原爆資料館提供）

［ヒロシマの記憶］ ※広島平和記念資料館提供

原爆被害の遺品

大下靖子さんの夏服（大下定雄氏寄贈）

県立広島第一高等女学校1年生の大下靖子（のぶこ）さん（当時13歳）は、土橋地区の建物疎開作業に動員され、被爆しました。同級生と2人で己斐（こい）に避難して夕暮まで民家にいたのち、己斐国民学校に収容されていたのを発見され大竹から入市した救援隊によって大竹の両親のもとに運ばれました。その時はまだ息があり、その日の様子を両親に語り、水を欲しがりましたが、当日深夜12時前に死亡しました。

山下博子さんの抜けた髪（山下博子氏寄贈）

大手町の自宅で被爆した山下博子さん（旧姓吉田、当時18歳）は、壊れた家の下敷になりました。弟の祐策（ゆうさく）さん（当時6歳）とともに瓦礫（がれき）の下からはいだし、はだしのまま火の手の上がる街から郊外へと逃げました。博子さんは、両手、両肩、両足にひどいけがを負っていました。一見元気だった祐策さんも、21日に倒れ、髪の毛が抜け落ち、高熱が出た後、鼻から大量に出血して24日に死亡しました。博子さんの髪の毛も、祐策さんと同じ21日に、一気に抜け落ち、病状が悪化しましたが、なんとか命はとりとめました。これは、懸命に看病していた母親の恭さん（当時46歳）が、万が一を思って、娘の形見のつもりにと大事にとっておいたものです。

折免滋（おりめん しげる）くんの弁当（折免シゲコ氏寄贈）

県立広島第二中学校1年4学級の折免滋くん（当時13歳）は、中島新町の建物疎開作業現場で被爆しました。母親のシゲコさんは破壊された街を必死で捜索しましたが、なかなか発見できず、知人からの情報でようやく8月9日早朝、滋くんの遺体と、遺体に抱えられた真っ黒に焼けたお弁当箱と水筒を発見しました。滋くんは、出征中の父と兄に代わって、シゲコさんのために山や竹やぶを開こんして畑を作っていました。その日のお弁当の中身は、その畑から初めて収穫した作物でつくったおかずで、喜んで持っていったものでした。シゲコさんは、それを食べることなく死んでしまった滋くんが不憫（ふびん）でなりませんでした。

市立中学校生徒3人の遺品
（津田蔵吉氏・福岡重春氏・上田トヨ氏寄贈）

市立中学校1・2年生は、小網町の建物疎開作業現場で被爆し、多くの犠牲者を出しました。平和記念資料館では、亡くなった３人の生徒が身につけていた衣服を一体にして展示しています。帽子は１年生の津田栄一さん（当時13歳）、学生服は2年生の福岡肇さん（当時14歳）、ゲートルは、1年生の上田正之さん（当時12歳）のものです。

ゲートル…脛の部分に巻く布などでできた服装品

［ナガサキの記憶］ ※長崎原爆資料館提供

被爆した長崎の街

昭和20年(1945年)8月9日の長崎市
人　口　　約240,000人

原子爆弾による被害者数（1945年12月末までの推定）
死　者　　73,884人
負傷者　　74,909人
（1950年／長崎市原爆資料保存委員会調査）

熱線による被害

熱線による物的被害

爆心地の近くでは、熱線のすさまじいエネルギーによって、燃えるものすべてが火をふきました。溶けたガラス、沸騰して泡立った瓦、焦げて黒くなった石などが、その激しさを物語っています。爆心地から遠ざかるにつれて熱線は弱まりますが、それでも2キロメートル以内では衣類、電柱、樹木などの表面が燃えたり焦げたりしました。

溶けた硬貨
重ねられたまま高熱を受けています。融点の差によって硬貨が互いにくっついているものがあり、瞬間的な高熱を受けたことを物語っています。　〈寄贈／鶴田清氏〉

火災による被害

熱線と爆風による被害は、火災によってさらに増大しました。爆風の被害が家屋の半壊程度ですんだところも、後で起きた火災のために結局全焼しました。全焼壊家屋12,900戸、半焼壊家屋は、5,509戸にのぼっています。火災は犠牲者の数も増大させました。倒れた家の下敷きになっても、火さえ来なかったら、外傷だけで助かったはずの人が、きわめて多くいます。

焼き尽くされた岩川町一帯
爆心地より南へ800m付近。
ここは静かな住宅街。自慢の並木もすっかり焼けてしまいました。
画面に見える一筋の県道も最初は堆積物に覆われていました。
〈撮影／小川虎彦氏〉

熱線による人的被害

熱線のわずか数秒間の高熱は、人々の皮膚に浴びせられました。熱線のすさまじさは通常の火傷では考えられない被害をもたらしました。爆心地からの距離により負傷の程度は異なりますが、重傷になると表皮は焼けただれてズルズルとはがれ落ち、皮下の組織や骨までが露出しました。1.2キロメートル以内では熱線だけでも致命的であり、爆心地付近では、あまりの高熱に一瞬のうちに身体が炭化し、内臓の水分さえ蒸発したと考えられています。

頭がい骨の付着した鉄かぶと
爆心地付近で発見されたもの。内部に被爆者の頭がい骨の一部が付着しています。　〈寄贈／原田敦雄氏〉

爆風による被害

爆心地より1キロメートル以内では、一般の家屋は原型をとどめないまでに破壊されました。鉄筋コンクリートの建物などがところどころに残りましたが、いずれも建物とは名ばかりの無惨な状態でした。つぶれたり、大きく変形したありさまが、爆心の方向を指し示しています。このようなすさまじい爆風に人々は吹き飛ばされ、散弾のような無数のガラスや木片を全身に浴びました。

城山国民学校
爆心地より西へ約５００m。
鉄筋コンクリート三階建ての校舎は、被爆直後はかろうじて骨格をとどめていましたが、爆風でもろくなっていたこともあり、その後の風雨などにより三階から崩れ落ちました。
（米国陸軍病理学研究所資料）

放射線による被害

放射線による人体の被害

原爆の放射線は人体を刺し貫き、そのときいろいろな細胞を破壊します。損傷の程度は被爆した量によって異なりますが、爆心地から１キロメートル以内で被爆した人のうち、無傷であっても、その大多数の人が死亡しています。放射線の破壊力はそれほど強烈でした。人体におよぼす害は、爆発のときだけでは終わりません。放射線は身体の奥深くを傷つけ、時がたつにつれて様々な症状を呼び起こします。あの夏に始まった放射線障害の苦しみは、いまだに消えることがないのです。

著しく肥大した脾臓（慢性骨髄性白血病）：4000g
*右は同年齢の脾臓（対照）：110g

これらの資料は、広島平和記念資料館と長崎原爆資料館で実際にご覧いただけます。また、26ページからの千葉市の戦跡めぐりのコーナーでは、千葉市内にあった軍事施設などの戦跡を紹介しています。是非とも実際の遺品や資料、戦跡などを目で見て、肌で感じて、戦争の悲惨さ・平和の尊さに思いを馳せてみてください。

3 戦中の千葉市

戦時下の市民生活

昭和6年（1931年）9月満州事変が勃発し、さらに、昭和12年（1937年）の蘆溝橋事件をきっかけに全面的な日中戦争となりました。そして、昭和16年（1941年）12月8日、ハワイの真珠湾攻撃により太平洋戦争に突入し、昭和20年（1945年）8月の終戦まで15年にわたる戦争が続きました。戦時下では防空演習などが行われました。

防 空

千葉防空演習本部前の本部員　昭和7年(1932年)7月、市役所に本部が設置されました。前列左から神谷市長、岡田知事、竹内千葉衛戍司令官。

県庁北側の日本赤十字千葉支社で行われた防空演習　昭和7年(1932年)7月、市内各地で大規模な演習が行われました。（防空写真帳　昭和7年発行より）

市民のくらし

なぎなたの練習　武道が正課となり、高学年の女子は「なぎなた」の練習をするようになりました。（千城国民学校）

さつまいもの切り干しの供出作業　子どもたちは軍馬の餌にする、さつまいもの切り干しづくりを行っていました。（昭和18年〔1943年〕頃 都町にて）

千葉駅改札に女性　戦争も激しくなってきた昭和19年（1944年）、女性の改札係が登場しました。

雑誌の表紙も時代を反映

婦人倶楽部附録
昭和13年（1938年）
9月1日号

子供の科学
昭和14年（1939年）
3月1日号

子供の科学
昭和14年（1939年）
6月1日号

写真週報
昭和19年（1944年）
6月7日号

写真週報
昭和19年（1944年）
9月6日号

写真週報
昭和19年（1944年）
9月27日号

旧千葉医大附属病院　昭和12年（1937年）4月の完成当時は、東洋一の規模を誇りましたが、戦局が激しくなると外壁に迷彩（カムフラージュ）をほどこしました。

現在の千葉大学医学部

「千葉市ゆかりの家・いなげ」敷地内に現存する防空壕（外観）　通常は、崖地に素掘りの「横穴式防空壕」でしたが、コンクリート製のものは、珍しいものでした。

（内部）

火たたき棒を肩に校庭を行進する自警団（昭和18年〔1943年〕11月）
〈写真提供：千葉経済学園〉

発行された衣料切符

〈中央区都町／露﨑芳郎氏所蔵〉

市内の陸軍関係の学校・施設

明治41年（1908年）6月の交通兵旅団と鉄道聯隊第二大隊の椿森移転以来、本市には、陸軍歩兵学校、気球聯隊など多くの陸軍施設が中央区（椿森、弁天）や稲毛区（作草部、天台、穴川、小仲台、園生）の台地に集積し、その総面積は約462ヘクタール（約140万坪）に及びました。現在跡地は、学校や公園、公共施設などに利用されています。

千葉市内の主な陸軍関係施設一覧表

No.	名称等	設置年月日	所　在	主な業務・沿革等	跡地の主な現施設
①	千葉聯隊区司令部	昭和6年（1931年）1月18日	中央区 椿森5丁目	・千葉県下の徴兵、動員、召集、在郷軍人の指導等を行った。 ・明治21年（1888年）5月21日「佐倉大隊区司令部」設置、明治29年（1896年）3月10日「佐倉聯隊区司令部」と改称、昭和5年（1930年）3月25日同司令部焼失。昭和5年（1930年）12月21日「千葉聯隊区司令部」と改称、昭和6年（1931年）1月椿森の交通兵旅団司令部跡に移転。	財務省関東財務局千葉財務事務所 日本たばこ産業（株）千葉支店
②	千葉陸軍病院	明治41年（1908年）4月1日	中央区 椿森4丁目	・傷病兵の治療にあたった。明治41年（1908年）4月「千葉衛戍病院」創設、昭和11年（1936年）10月1日「千葉陸軍病院」と改称。	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
③	鉄道第一聯隊	明治41年（1908年）6月2日	中央区 椿森2丁目 4丁目	・戦地では鉄道の建設・修理及び兵員・物資を輸送した。 平時は千葉市とその周辺で訓練をした。 ・明治29年（1896年）11月18日「鉄道大隊」として東京・牛込の陸軍士官学校内に創設、明治30年（1897年）6月28日東京・中野に転営、明治40年（1907年）10月22日「鉄道聯隊」に昇格、同年11月23日津田沼に転営。明治41年（1908年）6月2日第二大隊のみ椿森に転営、同年11月2日鉄道聯隊本部及び第一大隊の全てが椿森に転営、大正7年（1918年）5月29日「鉄道第一聯隊」になった。（「鉄道第二聯隊」は津田沼）	椿森中学校、椿森公園
④	同　材料廠	明治41年（1908年）	稲毛区 轟町3丁目	・鉄道工兵の教育、鉄道器材の修理を行っていた。 ・明治41年（1908年）鉄道聯隊が椿森転営の際「聯隊材料廠」を建設。大正7年（1918年）5月29日鉄道第一聯隊、同第二聯隊（津田沼）への改組に伴い「鉄道材料廠」として聯隊より独立、大正12年（1923年）3月末日廃止。その施設の一部を利用し、「鉄道第一聯隊材料廠」を設置。	千葉経済大学（旧材料廠） 県立千葉東高校（同都賀倉庫跡）
⑤	同　作業場	明治41年（1908年）	中央区弁天	・演習用の作業場	千葉公園（綿打池から競輪場付近）
⑥	千葉陸軍兵器補給廠	大正12年（1923年）4月1日	稲毛区 轟町3丁目 4丁目 5丁目	・兵器の補給、鉄道器材の保管を行っていた。 ・大正12年（1923年）3月末日「鉄道材料廠」が廃止し、同年4月1日その施設の大部分を利用し「千葉陸軍兵器支廠」が発足、昭和14年（1939年）「千葉陸軍兵器補給廠」と改組、昭和20年（1945年）4月18日「東京陸軍兵器補給廠」に併合、「東京陸軍兵器補給廠千葉分廠」となる。	轟町小、轟町中、市教育センター 市立第二養護学校 千葉経済大学短期大学部 千葉経済大学附属高校
⑦	陸軍歩兵学校	大正元年（1912年）12月24日	稲毛区 天台1丁目	・歩兵の戦闘法を研究し、これを全軍に普及させる目的で設立。	作草部公園、県中央児童相談所 天台保育所、千葉少年鑑別所
⑧	気球聯隊	昭和2年（1927年）10月	稲毛区 作草部1丁目	・大正2年（1913年）所沢に「気球隊」新設、昭和2年（1927年）10月作草部に転営、昭和11年（1936年）5月「気球聯隊」と改称。	県営作草部住宅、県計量検定所 川光倉庫（旧格納庫）
⑨	千葉陸軍戦車学校	昭和11年（1936年）12月1日	稲毛区 穴川4丁目	・戦車隊に必要な基礎的学術・通信・整備の教育及び戦車に関する調査・研究を行った。 ・昭和11年（1936年）8月「陸軍戦車学校」習志野に発足、同年12月1日穴川に移転し開校式を挙行、昭和15年（1940年）「千葉陸軍戦車学校」と改称。	稲毛区役所、県立京葉工業高校 独立行政法人放射線医学総合研究所
⑩	千葉陸軍防空学校（千葉陸軍高射学校）	昭和13年（1938年）8月1日	稲毛区 小仲台	・高射砲術の教育を行った。昭和13年（1938年）4月四街道の陸軍野戦砲兵学校内に「陸軍防空学校創立準備室」発足、同年8月に小仲台に移転、昭和17年（1942年）8月1日「千葉陸軍防空学校」と改称、昭和19年（1944年）4月に「千葉陸軍高射学校」と改称。	小中台小、稲毛図書館 仲よし公園、県立千葉女子高校 小中台中、市立千葉高校
⑪	下志津陸軍飛行学校	大正12年（1923年）5月17日	若葉区 若松町	・偵察機教育を行った。 ・大正10年（1921年）4月「陸軍航空学校下志津分校」を印旛郡千代田村に創立、大正12年（1923年）1月若松町に移転、大正13年（1924年）「下志津陸軍飛行学校」として創立。昭和19年（1944年）6月廃校し、「下志津教導飛行師団」となる。	自衛隊下志津駐屯地（高射学校）

注1 設置年月日とは、千葉市に創設または移転した時期です。
注2 上記のほかに、誉田陸軍飛行場、陸軍航空本部畑送信所などの施設がありました。

本表は防衛省防衛研究所戦史部の協力により作成したものです。

①千葉聯隊区司令部跡

千葉財務事務所（中央区椿森）

②千葉陸軍病院跡

（独）国立病院機構 千葉医療センター（中央区椿森）

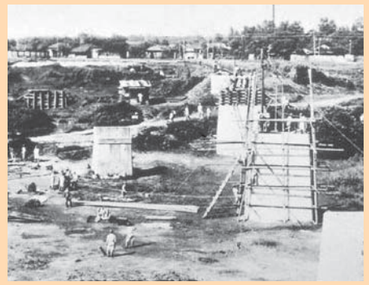
③鉄道第一聯隊正門

（中央区椿森）

④旧鉄道第一聯隊材料廠

千葉経済学園内（稲毛区轟町）「轟町」の地名は、軍靴の音が賑やかであったところから名付けられました。〔県指定有形文化財〕

⑤鉄道第一聯隊作業場



橋脚が破壊された場合の復元訓練風景で、現在の千葉公園内少年野球場付近です。（中央区弁天）

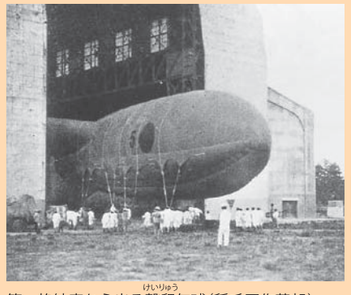
⑥陸軍兵器補給廠跡

昭和40年（1965年）頃撮影（提供 千葉経済学園）（稲毛区轟町）

⑦陸軍歩兵学校正門

（稲毛区天台）

⑧気球聯隊



第一格納庫から出る繋留気球（稲毛区作草部）

現在、川光倉庫が使用している旧第二格納庫（稲毛区作草部）

⑨千葉陸軍戦車学校

左側は中戦車A型ホイペット（イギリス製）、右側はルノーFT型（フランス製）（稲毛区穴川）

⑩千葉陸軍防空学校（千葉陸軍高射学校）

正門（稲毛区小仲台）

⑪下志津陸軍飛行学校

現在、自衛隊下志津駐屯地（高射学校）となっています。（若葉区若松町）

4 千葉空襲

昭和19年（1944年）7月から8月にかけて、米軍がマリアナ諸島（サイパン、グアム、テニアン）を占領して以来、マリアナ諸島を飛び立つ米軍のB29による本土空襲は、主要都市（東京（3/10）・大阪（3/13～14）・神戸（3/17）・名古屋（3/19、3/24～25、6/9）・川崎（4/15）・横浜（5/29））から始まり、次第に地方都市へと及び、本土の無差別爆撃となりました。

千葉市への大空襲は数度ありましたが、米軍が千葉市を目標とした空襲は、昭和20年（1945年）6月10日と7月7日（七夕空襲）です。2度の空襲により、中心市街地（約330ヘクタール）の約7割（231ヘクタール）が焼け野原となり、死傷者1,595人、被災戸数8,904戸、被災者4万1,212人に及びました。
参考：昭和20年12月末日の人口は、9万5,903人

東京中心粁程圖
聯ソ
滿洲國
中華民國
日本海
黄海
東シナ海
南支那海
フィリピン
ビルマ
タイ
佛印
蘭印
東印度
大太平洋
日本
ハルビン
ウラジオストク
ペトロパブロフスク
ハバロフスク
ポートアリマ
島ンバイサ
島ムッグ
島ブッヤ
島オアダンミ
島オラバ
島群ンリロカ
島ルバニア
島ヌスロア
島ヌ
島ヌ
島ヌ

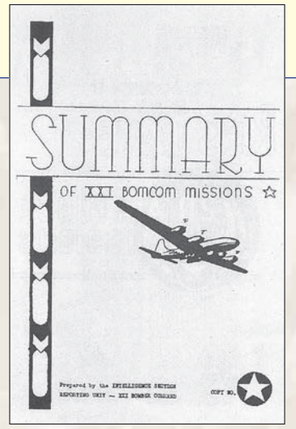
昭和20年（1945年）6月10日

空襲の状況

午前7時45分から同46分にかけての一瞬の攻撃でした。グアム北飛行場を飛び立った27機のB29による日立航空機千葉工場（現在のJFEスチール東日本製鉄所 千葉地区付近）を目標とした500ポンド通常爆弾（138.2トン）による攻撃でした。

米軍資料
作戦任務第198号

1	日付	1945年6月10日
2	目標	日立航空機会社千葉工場　90.14ー2145
3	参加部隊	第314航空団（グアム北飛行場）
4	出撃機数	27機
5	第1目標爆撃機数の割合	96. 5%（第1目標26機）
6	爆弾・信管のタイプ	ANーM64　500ポンド通常爆弾ー 1／100秒延期弾頭、無延期弾底
7	投下爆弾トン数	第1目標138.2トン
8	第1目標上空時間	6月10日7時45分～7時46分
9	攻撃高度	15,600～17,200フィート
10	目標上空の天候	10／10
11	損失機数合計	0機
12	作戦任務の概要	弾着写真によると、3飛行隊（Squadrons）が目標を攻撃。写真から工場に損害がないことが明らか。敵機16機視認、攻撃回数なし。敵機に与えた損害の申告なし。対空砲火は重砲、薄弱で不正確。B29の5,000フィート下にP51と思われる数機が見られた。2機のB29が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量11, 754ポンド。平均燃料残量1,026ガロン。



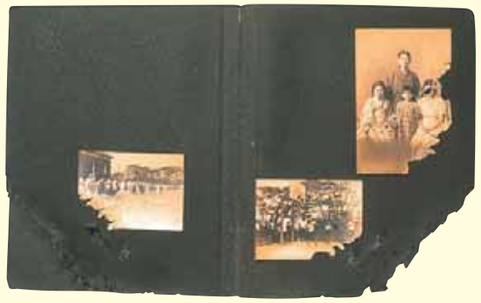
この資料は、マリアナ基地（サイパン、グアム、テニアン）のアメリカ陸軍航空隊B29部隊の「作戦任務要約」（Mission Summary）です。

1フィートは0.3048メートル、約0.3メートル。1マイルは約1.61キロメートル。1平方マイルは2.59平方キロメートル。
1ポンドは約0.45キログラム。1ガロンは約3.8リットル。

出典　小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容』ーマリアナ基地B29部隊ー　東方出版　平成7年（1995年）

空襲資料

罹災証明書　（昭和20年〔1945年〕6月10日の空襲）
〈寄贈／長門堯子氏（船橋市）〉



爆弾の破片で裂けたアルバム
（6月10日の空襲で被弾・倒壊した千葉師範学校女子部の寄宿舎跡から掘り出された）
〈資料提供／岩梨泰子氏（中央区新千葉）〉

被害の状況

この空襲による被害地域は、同工場の一部と蘇我町一丁目付近、そして目標から外れた新宿・富士見・新田町・新町付近で、死傷者391人、被災戸数415戸、被災面積26ヘクタールに及びました。

被害を受けた主な施設は、省線千葉機関庫（現在のJR千葉駅付近）、千葉師範学校女子部、県立千葉高等女学校など。

日立航空機千葉工場　（昭和21年〔1946年〕2月28日 米軍撮影）

あの時

中西　百合

昭和二十年六月十日の朝八時近く、小きざみにひびくウウッ、というサイレンの音。また、空襲警報が発令されたのです。校舎の長いろう下を全力で走りぬけ、附属小のわきの壕へ飛びこみました。と同時に地鳴りのようなごう音。思わずふり返った時、超低空でせまってくる巨大なB29のすがたが目に入りました。ハッとしてふせたのと、ドドーン、バリバリという地響きがして、真っ暗になったのが同時でした。

気がついた時、自分が生きているのか死んでいるのか全然わかりませんでした。あたりは物音ひとつしません。この壕に友達がいるはずなのに、その気配さえ感じられないのです。だいぶたってから、思い切って声を出してみました。「みんな生きてる？」すると「生きてるよ。」とだれかの声が帰ってきました。やっと助かったのだと思いました。「助かったんだね。」「よかった。」「出てみようよ。」口々に言いながらつぶれた壕からはい出しました。私達の目にうつったのは、もうもうと立つ土煙の中に、バラバラにさけて木くずとなった木造校舎の長い山でした。その中ほどにくずれかけた附属小のげんかんが、タイルのかべをぶら下げてやっと残り、見えるはずのない京成電車の線路の土手が、すぐそこに見えていました。

運動場に出た時、私達はあっとおどろいてしまいました。大きなすり鉢穴が、ボカボカと口をあけています。まるで月面のクレーターそっくりです。先生に言われて、図書館の大事な書物などをかかえて、すり鉢穴を右へ左へとよけながら、こわれなかった附属小の体育館に何度も運びました。

そのうち、亡くなった友達と、行方不明の友達が二人もいることがわかりました。手分けしてさがしたのですが見つかりません。「確かここに防空壕あったんじゃない？」とだれかが言いました。見つからない友達の一人は、そこに一番近い部屋にいたはずでした。もしかしたらとわずかな望みをかけて、救援の兵隊さんがほったら、友達がうつぶせで見つかったのです。だき起こすと、色白のほおにはまだ赤みが残っています。大急ぎで人工呼吸を始めました。「糸子さん。」「糸ちゃん。」と、ひっきりなしに呼びかけながら、一時間以上は続けたように思います。でも、ほおに紅をさしたまま、とうとう生き返ってはくれませんでした。もう一人の「富士子」さんは、くずれたタイルの下に三日間もうまっていたのです。「私はここよ」と送り続けられたサインは、かべやタイルの間からのぞいていた、ほんの少しのもんぺの布地だったのです。

私達は、「あの時」自分がどんな行動をとったのか、おぼえていないことが多くありました。何年も後になって作った文集で、だれがどんな体験をしたのかを、やっと知ることができたのです。

昭和20年（1945年）7月7日

空襲の状況

午前1時39分から3時5分までの攻撃で、「七夕空襲」とも呼ばれています。テニアン西飛行場を飛び立った129機のB29による千葉市街地を目標にした夜間の焼夷弾（889.5トン）の投下による無差別攻撃で、中心市街地は火の海と化しました。

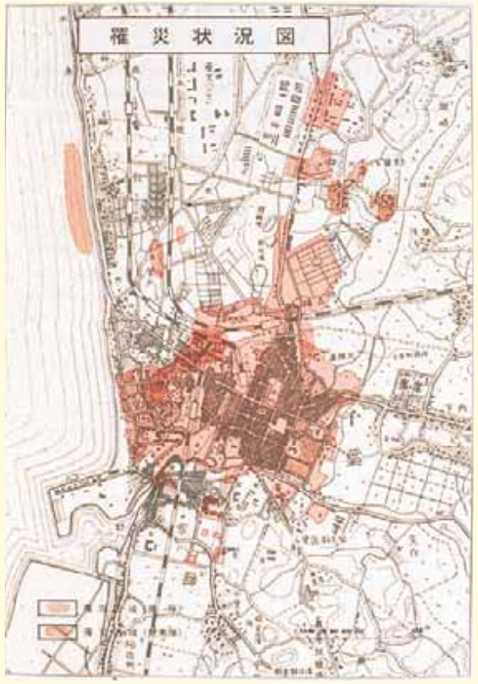
米軍資料
作戦任務第251号

1	日付	1945年7月6・7日
2	目標	千葉市街地
3	参加部隊	第58航空団（テニアン西飛行場）
4	出撃機数	129機
5	第1目標爆撃機数の割合	95.48％（第1目標124機、臨機目標1機）
6	爆弾・信管のタイプ	AN-M47A2　100ポンド焼夷弾　瞬発弾頭。 E46　500ポンド焼夷集束弾　目標上空5,000フィートで解束するよう弾底セット。 T4E4　500ポンド破片集束弾　投下1,000フィートで解束するよう弾頭セット。
7	投下爆弾トン数	第1目標889.5トン、臨機目標6.3トン
8	第1目標上空時間	7月7日1時39分～3時5分
9	攻撃高度	9,900～11,500フィート
10	目標上空の天候	10／10
11	損失機数合計	0機
12	作戦任務の概要	搭乗員への質問から、目標地域で点々と火災が起こりはじめ（scattered fires were started）、煙が25,000フィートまで上昇してきたことが判明。偵察写真によると、千葉の市街地の43.4％（0.86平方マイル）を破壊、または損害を与えた。5機が目視により、残りがレーダーにより爆撃。4機が無効果出撃。遭遇した対空砲火は重砲、中口径、小口径、皆無ないし貧弱、不正確。敵機18機視認、攻撃回数1。14機のB29が硫黄島に着陸。平均爆弾搭載量14,974ポンド。平均燃料残量842ガロン。

出典　小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容』ーマリアナ基地B29部隊ー　東方出版　平成7年（1995年）

空襲資料

〈すべての資料提供／金親兼弘氏（中央区院内）〉



「千葉戦災復興誌」昭和55年(1980年)
千葉県発行

罹災区域(爆弾)
罹災区域(焼夷弾)

被害の状況

この空襲により、中心市街地の大部分が焼き尽くされ、死傷者1,204人、被災戸数8,489戸、被災面積205ヘクタールに及びました。

被害を受けた主な施設は、千葉地方裁判所、千葉郵便局、千葉鉄道管理部、省線千葉駅、同本千葉駅、京成千葉駅などのほか、鉄道第一聯隊（椿森）、気球聯隊（作草部）・歩兵学校（天台）、千葉陸軍高射学校（小仲台）などの軍事施設。

私の空襲体験 ―平和への願いをこめて―

伊藤　栄子

私は千葉市の空襲（昭和二十年七月六日～七日未明）で、当時中心地だった本町で被害を受けた一人です。その日午後八時三十分から九時ごろにラジオで房総南端にB29が侵入したと空襲警報の発令がありました。その時とっさの見通しというか判断がつかなかった自分のにぶさを今でも時々思いおこします。「まさか自分の家は。」というあまい考えがいざという時の用意を最後までさせませんでした。

アメリカ軍機が千葉市めがけてやってきたその時、家中のカギをしめ、出ていいものかどうかとまよっていました。それでも不安な思いで家を出て、千葉神社ににげ場を求めることにしました。千葉神社は今の二倍くらいの境内で大きな防空壕がふたつありました。多少の不安がありましたが、ここにいれば安全だろうと考えていました。爆弾や焼夷弾の威力はそのくらいのひなん場所ではとてもにげ切れるものではないことをはじめて知りました。鳥居の近くに防空壕がふたつあり、人々はうろたえまよいながらひなんしていました。

しばらくすると爆弾が落ちはじめました。「ヒューッ」「ドカーン」と、ものすごい音でした。自分の頭か背中に落ちてくるようで瞬間目をつむり、地面にふせました。「ああ自分もこれで終わりか。」と恐怖でぶるぶるふるえました。爆弾の恐怖が少しやんだと思ったら、今度は焼夷弾が落ちはじめました。防空壕にいるべきか外に出た方がよいかさんざんまよって外に出ることにしました。まごまごしながら、いま思えばバラバラ落ちる焼夷弾によくぶつからなかったものだと思うほどでした。

青白い炎が地面から吹きあがり、燃えるものすべてに燃え移り、たちまちにして一面火の海となり火のかべの中にいるような状態になりました。やっと鳥居の近くの小さな石塀に身をよせましたが、火は猛烈な風をひきおこし、台風なみの勢いで荒れ狂いました。私の服にも火が付き、母が夢中でもみ消してくれました。わりあい薄い服だったので体にも火が付いていました。小さな石塀に身を寄せ、火をよけながら、右腕で顔をかばい、必死の思いで夜があけるのを待ちました。その時、体中にかなりのやけどをしていたことが後でわかりました。

翌朝、生き残っていた人達がいっせいにどこからともなく出てきて、お互いに名乗りあっていました。母が私の体を心配して救急車を呼んでくれました。救急車といっても軍用のトラックに幌がかけてあるものです。千葉神社から今の国立千葉病院（当時の陸軍病院）まで一時間かけてたれさがった電線をかきわけながらやっと木造のきたない病院に着きました。入院を希望すると、大学病院に移りました。

治療を数週間受け、文字通り九死に一生を得ることが出来ました。そして今日にいたっています。こうした体験者はだんだん少なくなっていますが、戦争の惨禍は二度とくり返してはなりません。だから平和を願う気持ちは今でも私の心からはなれることはありません。

5 戦災からの復興

昭和20年（1945年）８月15日、ポツダム宣言の受諾により、太平洋戦争が終結しました。

空襲による家屋の焼失、物価高騰、食糧不足など、市民生活は困窮を極めました。

しかし、そのような苦しい中、人々は必死でバラック小屋を建て生活の再建をし、街の復興に向けて立ち上がりました。

昭和天皇がご視察　昭和天皇が千葉市を訪問され、亥鼻山から戦災復興状況を視察されました。奏上者は渡辺良雄市長代理（助役）。（昭和21年〔1946年〕6月7日）

復興に向けて

本町通り　亥鼻山から見た市中心街。中央が本町通り及び大和橋。（昭和21年〔1946年〕8月）

吾妻町付近（現在の中央区中央）　千葉銀行本店屋上から見た亥鼻山・県庁方面。（昭和21年〔1946年〕8月）

本千葉方面　県教育会館屋上から見た本千葉方面。煙突は旧参松。（昭和21年〔1946年〕8月）

栄町通り　千葉銀行本店屋上から見た栄町通り。通りの正面は国鉄千葉駅。（昭和21年〔1946年〕8月）

戦後の市民生活

千葉銀座通りのヤミ市　昭和21年（1946年）秋頃のヤミ市の様子。正面が千葉銀行本店です。

国鉄千葉駅前の買い出し部隊　主な生活物資は配給制でしたが、ヤミ市はますます増加していきました。

勤労奉仕　昭和22年（1947年）頃、浜野町付近。近隣の人々が協力しあい、道路工事を行いました。

本町小の校舎上棟式　昭和23年（1948年）

戦後復興事業

終戦後、政府の「戦災復興計画基本方針」に基づき、千葉市は都市計画委員会を中心に、戦災復興院、県などと協議を重ねて復興計画を立案、昭和21年（1946年）６月27日に117万坪（386.8ヘクタール）の事業認可を受けました。この計画では、市の人口規模を15～20万人と想定したほか、千葉市を首都の衛星都市、学園都市、臨海水辺都市、県の政治・経済・文化の中心都市と位置付けました。

この計画により、国鉄千葉駅、京成千葉駅の移転を中心として道路・公園などの整備が行われ、事業は昭和55年（1980年）に完了しました。

事業計画図
（「千葉戦災復興誌」より）

施行前

施行後

①国鉄千葉駅

国鉄千葉駅　昭和２年（1927年）に改築された旧千葉駅。（現在の市民会館付近）

移転工事中の国鉄千葉駅　昭和38年（1963年）４月28日に開業しました。

JR千葉駅（平成25年〔2013年〕2月13日）

②千葉駅前大通り

昭和20年代頃

昭和40年代

（平成23年〔2011年〕2月）

③中央公園付近

昭和30年代の旧京成千葉駅跡

昭和40年代

（平成23年〔2011年〕1月）

④葭（よし）川公園付近

昭和20年代

昭和30年代

（平成23年〔2011年〕1月）

6 世界は今 ～世界の紛争と難民～

「20世紀は戦争の世紀」といわれています。たくさんの犠牲と被害をもたらした第1次、第2次世界大戦のあとも、300回を超える紛争によって、2,000万人以上の犠牲者が出たとされています。

昭和20年（1945年）以後、アメリカを中心とする西側の国々と、旧ソ連を中心とする東側の国々の対立（冷戦）が続きましたが、1990年代、ソ連の崩壊によって冷戦は終わりました。しかし、それまで抑えられていた民族や宗教、独立の問題がわきあがり、さらに貧困、経済など様々な問題と絡み合って、各地で武力紛争が多発しました。

NGO（非政府組織）の世界的広がりと国の枠を越えた活動、ヨーロッパの通貨統合などにより、21世紀は平和への展望が見えたかのようでしたが、2001年9月11日に起こったアメリカの同時多発テロ以来、世界でテロ事件が相次いでいます。現在でも多くの地域で内戦や紛争が絶えず、世界各地で約2,250万人（2016年末時点）の難民※が存在しています。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

UNHCRはスイスのジュネーブに本部を置き、世界の難民の保護と支援を行う国連機関です。UNHCRは国連総会によって設立され、1951年に活動を開始しました。UNHCRの支援対象者は難民以外にも、庇護申請者、帰還民、無国籍者、国境を越えずに避難生活を続けている相当数の国内避難民を含みます。設立以来、UNHCRは 5,000万人以上の生活再建を支援し、1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞しました。現在では、6,560万人以上(2016年末時点)の迫害や紛争によって移動を強いられた人々を支援するため、約130カ国において活動しています。

※ 難民とは、「人種、宗教、国籍、政治的意見や特定の社会集団に属することを理由に、自国にいると迫害を受ける恐れがあるために、他国に逃れた者」とされています。

©UNHCR /Bassam Diab

筆記用具や教科書が欲しいです、と切実に訴えるシリア・アレッポの生徒たち。

©UNHCR / Andrew McConnell

破壊されたシリアの町ホムスの住宅街。ホムスはシリア国内での紛争地域の中でも最も深刻な被害を受けた場所の一つである。この地域で暮らすことは困難だが、ホムスに戻って町を再建しようとしている人もいる。

シリアのホムスでサッカーをする子どもたち。ホムスにある住宅街36区画のうち12区画が再建を必要としている。

©UNHCR / Andrew McConnell

©UNHCR / Hameed Maarouf

シリア・アレッポでの争いが収まった後で、家の様子を見に戻った家族。

©UNHCR / Bassam Diab

紛争の中をなんとか生き延びているシリア・アレッポの子どもたち。

©UNHCR / Cengiz Yar

子どもたちも、イラク・モスルの戦闘を一生懸命逃れている。

©UNHCR / Ivor Prickett

イラク・モスル郊外にて避難する家族。

©UNHCR / I. Prickett

トルコのコバニ郊外へと逃れるシリア難民。

©UNHCR / Andrew McConnell

生き延びるために自力で作ったラフトでかろうじて対岸バングラデシュにたどり着くミャンマーのロヒンギャ難民。

©UNHCR / Andrew McConnell

ボートでトルコからギリシャのレスボス島に到着したシリア難民。

©UNHCR / Shawn Baldwin

紛争が始まる前は、ナセールと彼の家族はアレッポで楽しい生活を送っていた。今はイスタンブールで妻と5人の幼い子どもたちと橋の下で寝泊まりしている。ナセールの両親は近くの公園で避難生活を送っている。多くのシリア人の家族は貯蓄が底をつき生活手段もない状態で周辺国へと逃れてくる。

©UNHCR / Shawn Baldwin

アイーシャ（5歳）は、イスタンブールの、廃墟となった建物で半年間生活してきた。彼女は母親と10人の兄弟、姉妹と共にここで避難生活を送っている。シリア難民の多くは都市で暮らしており、狭いアパートをほかの難民と共同で利用している。

©UNHCR / Rocco Nuri

夫と娘を見失い、3日徒歩でウガンダに到着した南スーダン難民の母。

©UNHCR / Andrew McConnell

バングラデシュのロヒンギャ難民の子どもたちのために届く筆記用具やスポーツ用品。

©UNHCR / F. Noy

UNHCRの支援により建てられたカメルーンの学校で、現地の子どもたちと共に学ぶ難民の子どもたち。

難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

UNHCRの公式支援窓口である国連UNHCR協会では、UNHCRの活動を支えるための広報・募金活動をしています。

7 千葉市の戦跡めぐり

千葉市内とくに轟町・作草部・椿森・弁天地区には、かつて『軍隊の町』といわれるほど、多くの軍事施設が集積していました。今は平和な学園地域や住宅地域となっているこの地域には、往時を偲ばせる戦跡が今も点在しています。モノレールなどで戦跡を訪ね、「戦争の悲惨さ、平和の尊さ」を考えてみましょう。

葭川公園駅

❶平和都市宣言記念像（京成千葉中央駅東口前）

「FUTURE SUPPORTERS」
未来を支える人々
（制作者 関正司氏）

平成7年（1995年）7月7日、千葉空襲・終戦50周年を記念し「平和都市宣言」のシンボルとなる記念像を空襲の被災地である京成千葉中央駅東口前に設置しました。高さ10メートルのステンレス製の像は、人々が互いに尊重し、信頼し合いながら支え合う姿を表現しています。

❷戦災復興記念碑（中央公園内）

終戦後、政府の「戦災復興計画基本方針」に基づき、千葉市は都市計画委員会を中心に、戦災復興院、県などと協議を重ねて復興計画を立案、昭和21年（1946年）6月27日に117万坪（386.8ヘクタール）の事業認可を受けました。

この計画により、国鉄千葉駅、京成千葉駅の移転を中心として道路・公園などの整備が行われ、事業は昭和55年（1980年）に完了しました。

千葉駅

❸千葉師範学校女子部跡碑（千葉駅前大通り・京葉銀行本店前）

千葉師範学校女子部

千葉師範学校女子部は富士見町にありましたが、昭和20年（1945年）6月10日に空襲を受け、校舎は焼失しました。

千葉公園駅

千葉公園内

❹演習用トンネル

❺架橋演習用橋脚

❻荒木山

戦前の荒木山

鉄道第一聯隊作業場

千葉公園は戦後昭和21年（1946年）6月に戦災復興計画により公園造成が決まり、建設されました。綿打池付近から競輪場一帯が鉄道第一聯隊の演習用作業場であったところから、現在でも架橋演習のための橋脚やトンネルが残されています。

ボート管理事務所先の高台一帯は、満州事変で武勲をたてた鉄道第一聯隊の荒木克業大尉の名をとって「荒木山」と呼ばれています。戦前まで、荒木大尉の銅像が建っていました。

椿　森

❼千葉陸軍病院跡（（独）国立病院機構 千葉医療センター）

明治41年（1908年）に創設された「千葉衛戍（えいじゅ）病院」は、昭和11年（1936年）に「千葉陸軍病院」と改称され、傷病兵の治療にあたっていました。現在、同病院は、独立行政法人国立病院機構千葉医療センターとなっています。

鉄道第一聯隊正門

❽鉄道大隊記念碑

❾将校集会所庭の築山跡（椿森公園内）

椿森公園の北には、明治36年建立と刻まれた「鉄道大隊」の記念碑があり、そのそばには鉄道隊駐屯の跡という小さな石が現存しています。「鉄道大隊」は、明治29年（1896年）東京牛込で創設され、その後、明治41年（1908年）に椿森に転営し、大正7年（1918年）に「鉄道第一聯隊（れんたい）」となりました。

また、椿森公園内には、同聯隊の将校集会所の庭の築山跡が残っています。

作草部駅

⑩旧鉄道第一聯隊材料廠（千葉経済学園内）

明治41年（1908年）鉄道聯隊（れんたい）の椿森転営に伴い「聯隊材料廠（しょう）」を建設。その後、組織改正を経て「鉄道第一聯隊材料廠」となり、鉄道工兵の教育、鉄道器材の修理が行われていました。現在、県指定有形文化財として保存されています。

天台駅

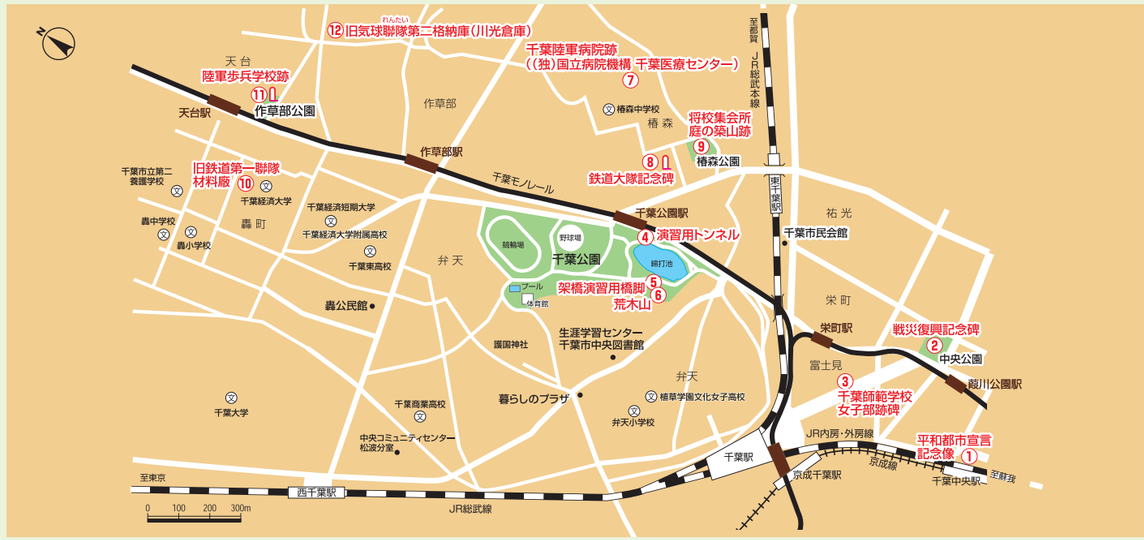
⑪陸軍歩兵学校跡（作草部公園内）

陸軍歩兵学校正門

大正元年（1912年）歩兵の戦闘法を研究し、これを全軍に普及させる目的で「陸軍歩兵学校」が設立されました。千葉県中央児童相談所前の作草部公園のあたり一帯は、かつて陸軍歩兵学校のあったところです。児童相談所の入口前に「陸軍歩兵学校跡・平和之礎」の石碑があります。

⑫旧気球聯隊第二格納庫（川光倉庫）

大正2年（1913年）に所沢に新設された「気球隊」は、昭和2年（1927年）作草部に転営し、昭和11年（1936年）に「気球聯隊（れんたい）」と改称されました。旧気球聯隊格納庫のひとつが川光倉庫として現存しています。



写真及び資料提供者（50音順）

印旛沼開発文庫
国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所
千葉経済学園
千葉県
千葉市空襲を記録する会
東方出版
長崎原爆資料館
ノーベル書房
広島平和記念資料館
平和市長会議事務局

板倉榮一氏
岩梨泰子氏
香川成治氏
金親兼弘氏
清水啓次氏
露﨑芳郎氏
長門堯子氏
野口栄治郎氏

このほか「千葉市制施行70周年記念誌」（平成3年1月発行）及び「写真集 千葉市のあゆみ」（平成13年3月30日発行）に写真提供をいただいた方々

主要参考文献（発行年、書名、発行）

昭和11年「回顧四十年」鉄道隊四十年記念祭委員
昭和49年「千葉市史・近世近代編」千葉市
昭和51年「四街道町史・兵事編　上巻」四街道町
昭和53年「高射戦史」下志津（高射学校）修親会
昭和53年「ふるさとの思い出　写真集　明治大正昭和　千葉」国書刊行会
昭和54年「軍服の青春」ノーベル書房
昭和55年「千葉戦災復興誌」千葉県
昭和55年「千葉市空襲の記録」千葉市空襲を記録する会
昭和55年「日本工兵写真集」原書房
平成元年「私たちの戦争体験記」千葉市
平成元年「米軍資料に見る　千葉・銚子空襲」千葉市空襲を記録する会
平成２年「事典　昭和戦前期の日本　制度と実態」吉川弘文館
平成３年「千葉市制施行70周年記念誌」千葉市
平成５年「千葉市図誌」千葉市
平成６年「日本陸軍兵科連隊」新人物往来社
平成８年「ながさき原爆の記録」長崎市
平成９年「わたしたちはわすれない　～平和への願いをこめて～」
ちば市教育文化センター　千葉市教職員組合
平成12年「千葉市教育史〔写真編〕」千葉市教育委員会
平成13年「写真集　千葉市のあゆみ」千葉市

戦没者戦災死没者之慰霊碑
（桜木霊園内）

平和祈念碑「忘れない千葉空襲」
（亥鼻公園内）

考えよう　平和の大切さ

あなたに伝えたい…「戦争の悲惨さ」、「平和の尊さ」を

千葉市

発　行　日／平成30年6月
編集・発行／千葉市市民局市民自治推進部市民総務課
千葉市中央区千葉港1番1号
TEL.043-245-5153　FAX.043-245-5155
E-Mail　somu.CIC@city.chiba.lg.jp
ホームページ　千葉市　平和啓発　検索

無断転載・複写を禁じます

千葉開府 Road to 900
since 1126

VEGETABLE OIL INK

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています